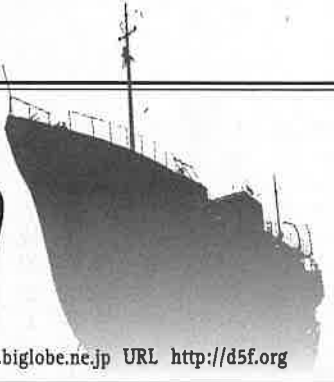


2007.06.01  
No.337

# 福竜丸だより



発行：財団法人 第五福竜丸平和協会 連絡所：東京都江東区夢の島3-2 〒136-0081 第五福竜丸展示館内

Tel.03-3521-8494 Fax.03-3521-2900 E-mail:fukuryumaru@msa.biglobe.ne.jp URL http://d5f.org

## 核兵器ノー、平和への メッセージをのせて



元乗組員の大石又七さんから体験を聞く中学生（5月17日撮影・小沢吉一）

夢の島公園の木立も鮮やかな緑まぶしい季節、今年も四月半ば以降は修学旅行や社会科見学、遠足にとたくさんの生徒たちが訪れています。

四・五月の学校見学は一三〇校余り、五月二日には高校三校一二〇〇人が来館、ボランティア・ガイドと職員の名で解説にあたりました。

特別展「船大工の技と仕事」を見入る一般の見学者も多く、感想文用紙やノートにはたくさん書き込みが寄せられています。またメッセージのカードも受付横の壁一杯に貼られ、平和への想いが伝わってきます。

### 寄せられた感想より

◇第五福竜丸の歴史を未来に生かすことができるような世界にしていきたい。そして平和な地球を創っていきたい。（山梨・小6・女）

◇私が生まれる以前から今まで、変わらず核を用いて人を苦しめているという現実をしつかりと理解できなければ、これから核を廃絶することはできないと思います。人に伝えることの大切さをよりいっそう学ぶことができたい。（23歳・男）

◇陸上の大会があるときには、あいまをみていつもここに來ます。教科書のすみに第五福竜丸が夢の島に保存されていると書いてありました。船が歴史を感じさせてくれます。（東京・中2・男）

◇後世にのこしてほしい。皆が知ることと忘れないこと。先人の保存に対する

努力に敬意を表し感謝します。（東京・66歳・男）

◇木造の船でいつまでも現状維持するのは大変だと思いますが、ずっと続けてほしいです。（埼玉・20歳・女）

◇マグロの消費大国であり、被爆国であり、第五福竜丸という歴史をもつ日本に生まれた私たちはこのことを嘆くのではなく、体験しているからこそ伝承され後世へも継承していく。第五福竜丸と航海してくことが大切だと実感しました。（東京・21歳・女）

◇放射能については福島県にも原発があるので、私たちにも決して遠いものではないかもしれません。犠牲者たちのことを決して忘れてはいけないのだと知らされました。今回学んだことを忘れずに学校生活を送っていききたいと思えます。（福島・中3・男）

### 特別展「船大工の技と仕事」 トークイベントのご案内

\*七月一六日（月・祝）午後2時～4時 於・第五福竜丸展示館

\*お話 船大工棟梁・近藤友一郎（焼津、近藤和船研究所主宰、現代の名工）

・日塔和彦（文化財木造建造物修復専門家、東京芸大客員教授、協会評議員）

今では造られることのない木造船の話や第五福竜丸の保存の展望を語ります。終了後、茶話会も。お誘いあわせの上ご参加ください。

## 第五福竜丸 船体の現状と保存の展望

日 塔 和 彦

文化財木造建造物修復の専門家の日塔和彦さん（東京芸大客員教授、協会評議員）に寄稿していただきました。

### 1、木造構築物の寿命

第五福竜丸は一九七六年、建造から三〇年目に展示館に格納して保存された。木造船の耐用年数は二〇年とされているので、この時点ですで一〇年オーバーしている。木造建造物は地上に建っているため、船のように明確な耐用年数は決まっていない。もっとも現在建てられている住宅（プレハブ・在来木造を含めて）は五〇～六〇年といわれるが、三〇年程度で建替えられる場合が多い。これは耐久性よりも機能的な理由によるものである。伝統的な工法で建築された木造住宅は各地の文化財指定民家のように三〇〇～四〇〇年経過したものも多い。また、法隆寺の建物のように千年以上耐えている建物もあることから、木造建築は鉄骨やコンクリート造の構築物と

は比較にならない長寿命であることがわかる。

第五福竜丸は建物と同じく地上に置かれた木造構築物である。従って、適切な維持管理がなされれば、法隆寺の建物のように長寿命を得ることが可能である。

### 2、船体保存の経過

一九七六年の展示館格納後、船体の破損は急速に進行した。八三年には専門家による「船体補修に関する調査会」が組織され、その原因と対策についての検討を行った。翌八四年には（財）文化財建造物保存技術協会（以下、文建協）が船体調査を実施して詳細な破損調査や船体変形実測が行なわれた。その結果を受け、八五～六年に大規模な保存工事を実施して船体構造が補強された。

九六年に文建協が保存修理後一〇年目の現況調査を行っ

た。展示館天井からの雨漏れやエアコン吹き出しなどが原因の破損はあったものの、船体構造そのものには問題が生じていないことが確認された。

九七年に部分補修として雨漏れ腐朽の上甲板と梁の補修、船橋塗装替え、前回未修理の煙突・換気筒の補修、鋼製天窓の新設が行なわれた。また、内部隔壁の腐朽木部に含浸強化処理が試みられた。その他、展示館施設にはトップライト天井からの雨漏れ防止として屋根が新設され、観覧台が増設されて現在に至っている。

また、八六年から九六年の一〇年間に東京大手町の気象庁では震度五を二回、震度四を一二回経験しているが、その船体への影響は目視上からはみられなかった。

### 3、九七年の船体補修の内容と原因

九六年の現況調査結果は「現況調査報告書」としてまとめられた。すぐに補修が必要なのは①上甲板の部分修理、②船橋の塗装修理、③後部マストの根継補修の3項目であった。

①上甲板の部分修理 腐朽は

展示館上部のトップライト部分からの雨漏りが原因であり、この部分は以前から雨漏りを繰り返していた。今回の雨漏りはかなり著しく三箇所のみられたが、その中でも賄室左舷部分はワタグサレタケが寄生した腐朽で、甲板、梁類を含む幅八〇cm、長さ二・五mに及んでいた。補修では内部に柱を補強した上で二本の甲板梁を接木し、甲板を張り替えた。他の箇所は軽微なことから、補修は見送った。

②船橋の塗装修理 船橋の塗装は保存工事の際に夢の島放置時の塗装がそのまま残っていた。この工事のコンセプトは放置時の外観をそのまま保存するという方針であったため、補修の手を入れなかった部分である。修理後、急速に船橋部分の塗装剥離が進行し、九七年の調査時にはひどいアバタ状況を呈していた。その破損は鉄部特に船橋前部と右舷側に著しいことから冷暖房の吹き出し口の影響が大きいことが明らかであった。

このため、工事では鉄部の古塗装をケレン除去し、錆止めを施した本格的な塗装を

施したが、色調は現場でそれぞれに似合った古色調合を行なった。

③後部マストの根継補修 主マストは前方・後方に二本が立ち、これらはワイヤーでお互いに引っ張られている関係にある。このうち、前方のマストは保存工事で根本部分を添え木で補強したが、後方のマストは破損が少ないと判断してそのまま存置した。現況調査の結果、このマストの根本部分に蒸れ腐れが進行し、ワイヤーに引っ張られて手摺に寄りかかって保っていることが判明した。このため、根継補修を施した上で鉄板を巻いて補強を施した。

④その他の補修 以上のほか、東京都からの要望として、鏑の進行している換気筒の補修、外板の抜け落ちているマキハダ補修、甲板上艙口二箇所への鋼製天窓新設があったので、これらも併せて工事を行った。

⑤当初腐朽部材への含浸強化処理試行 内部隔壁に含浸強化処理も試験的に実施したが、これについては次項でみていく。

（以下は次号に掲載します）

# マーシャルの友を偲んで

島田 興生



初めて会った時のジョン（左）とネルソン（右）兄弟、  
イバイ島のレストランにて（1974年7月23日）

ジョン・アンジャインさんとネルソンさんに初めて会った時のこと、三三年も経つのに今も忘れられない。前田哲男さんとロンゲラップ島に向かう船旅中のイバイ島。一九七四年七月二三日。私たちはイバイ島にいた二人に埠頭に停泊中の船まで来て貰い話を聞いた。風通しが悪い船室は蒸し暑く、コブラ油も匂

い、額に汗がしたたたたったが、話は衝撃的だった。

ジョンさんはこの時五二歳、ネルソンさんは四八歳。当時のメモを見ると、二人は戦前教えられた日本語に英語を交え、飾り気なく正確な事実だけを話してくれていたのには驚く。

翌七五年三月、グリーンピースの老帆船「フリー号」が静

岡のビキニ・デーに参加の途中、ロンゲラップ島に寄った。「船は日本に行く。誰か一緒に行かないか」との船長の呼びかけに、ネルソンさんは「よし、俺が行く」と小さなバツグ片手に、無一文で船に乗った。

後日、ネルソンさんはこの清水港までの嵐と粗末な食事の二カ月の航海を「本当に死ぬかと思った」と語っている。このネルソンさんの果敢な行動は、ロンゲラップ被曝者の窮状が広く日本に知られるきっかけを作った。私個人も七六年、一カ月間同行してもらったビキニへの旅を始め、一緒にした旅は数知れない。

一方、ジョンさんは自身と一家四人の被曝体験と島民の苦しみを多くの人に語り伝えただけでなく、謙虚な人柄のせいで、会った全ての人をとりこにする魅力を持ち、ロンゲラップの精神的支柱になった。

\*

一九七二年に初来日。この時新聞は、「身にしみる原爆の恐怖（朝日新聞）」とあくまで広島からの従属的扱いだった。被曝五〇年に当たる二〇〇四年

三月、四度目の来日は体調が衰えていて、命がけの旅になった。「太平洋の核の語り部」としての責任感が旅を支えたが、三カ月後ハワイの病院で死去、八三歳だった。

二年後の二〇〇六年一月二日、ネルソンさんがイバイ島で亡くなったという知らせが入った。翌一月にマーシャル行きを予定していた私は、葬儀に間に合わないにしても何とか墓参りだけはしたかった。しかし、飛行機が週に一遍飛ぶとはいえ墓のあるメジャト島は依然僻地であきらめるしかなかった。

一月十八日、マジユロの町で突然一人の男に声をかけられた。ネルソンさんの長男のダークさん、一週間前にメジャトの葬儀から帰ったばかりと言う。葬儀を撮ったデジカメの写真を家で見せてもらった。

マーシャル各地から約二〇〇人の島民がメジャトに集まり、一月三日から一〇日まで一週間盛大なネルソンさんの葬儀が行なわれた。遺体をのせたボートが浜辺で島民を迎えられるところから埋葬まで明るく陽気な葬儀が続い

た。そして、葬儀に参列した一人、被曝者のロッコさんは「皆のために頑張った、ネルソンはいい人だった」と皆が話していたと言った。ネルソンさんの海外での旅と宣伝活動は島民の間では余り評価されなかっただけに、「ネルソンさん、良かったね」と私は棺に納められたネルソンさんに向かつてつぶやいた。

パソコンの画像の最後に、墓の前で泣き崩れる一人の若い娘の姿があった。養女でネルソンさんが可愛がっていたロージエンちゃんだった。ロージエンちゃんの悲しみが伝わってきて、私もネルソンさんを失った悲しみをはじめて実感した気がした。（フォト・ジャーナリスト）

## 第五福竜丸の絵を 募集します

募集期間 5月1日～7月10日

応募資格 小学生 中学生

詳細は展示館にお問い合わせ下さい。

作品は夏休み期間中展示します

**2007年  
お花見平和のつどい開く**

田中里子さんの発案で東京地婦連により展示館前に植えられた「八重紅大島桜」も若木から青年に育ち、今年はとりわけ美しい花をつけて見事でした。

4月7日、青空と満開の花の下で、第7回「お花見平和のつどい」が開かれ、70人が参加、みなさんは一様に田中里子さんに思いをはせておられるようでした。

今年のつどいは、第五福竜丸エンジンの展示館前への設置のとりくみ（第

**田中里子さん逝去**



03 お花見平和のつどいでの田中さん

東京地婦連常任参与、第五福竜丸平和協会評議員の田中里子さんは、3月28日に亡くなりました。享年81歳でした。

田中さんは、地婦連事務局員として第一回原水爆禁止世界大会に山高しげり会長とともに参加、その後初代事務局員として消費者運動、平和運動や子どもと女性への国際的な支援事業などに携わりました。

1978年の第一回国連軍縮特別総会では、NGO代表で核廃絶を訴え演説しました。また第五福竜丸展示館を大切にされ、エンジンの設置の運動や「お花見平和のつどい」などに献身されました。

4月26日の「お別れの会」では、協会代表も挨拶をしました。

五福竜丸エンジンを東京・夢の島へ都民運動、2000年に展示実現）から7年余、その運動を振り返り、劣化がすすむエンジンの保存、建造60年の第五福竜丸の今後について考えあうをテーマにおこなわれました。

エンジンの運動で中心を担った団体一都生協連、主婦連、東京地婦連、東友会（被爆者団体）、都消費者団体、東京原水協などからそれぞれのとりくみが紹介され、第五福竜丸平和協会からは、エンジンに寄せる参観者の声が紹介されました。

午後は記念講演として日塔和彦さん（木造建造物修復）による第五福竜丸船体の現状と保存について、また展示館の市田真理学芸員からエンジンの現状が報告されました。

**ひめゆりの証言者たち見学**

4月4日、沖縄のひめゆり平和祈念資料館から本村つる館長はじめ同館で証言活動をつづける13名の元「ひめゆり学徒隊」のみなさんが来館しました。

一行は、ボランティアの会世話人の遠藤昌樹さんの案内で見学し、また安田事務局長が来館者への対応や伝える活動について報告し懇談しました。

**平和行進が展示館前を出発**

広島へむけて核兵器廃絶を訴え歩く国民平和大行進が5月6日、展示館前を出発しました。

当日は雨の中を800人が集まり、展示館の見学なども多数にのぼりました。出発集会では、第五福竜丸平和協会の川崎昭一郎会長が挨拶、建造60年を迎えた第五福竜丸もさらに核廃絶を発信し航海をつづけること、平和行進のみなさんも平和への願いをひろげながら目的にむかい頑張ってほしい、と激励しました。

**協会理事会・評議員会開く**

財団法人第五福竜丸平和協会の理事会と評議員会が5月21日、学士会館にて開催されました。

今回の会議は、2006年度の事業報告および決算報告について報告・提案され、審議のうえ承認されました。

06年の収支決算の概要は以下の表のとおりです。

理事会、評議員会とも議題の審議ののち、展示館の近況や特別展の現況などについて意見交換しました。とくに来館学校を増やしていくことでは、江東区内の全ての小中学校への見学依頼のとりくみや教員の協力、夏休み工作教室や「絵の募集」などの広報について話し合われました。

なお、今年度より新たに理事として山本義彦さん（静岡大学教授）が就任しました。また評議員には、奥山修平さん（中央大学教授）、猿橋則之さん（会社役員）、榛葉文枝さん（和光中学・日本大学非常勤講師）、高原孝生さん（明治学院大学教授）、日塔和彦さん（木造建造物修復専門家）が新たに就任しました。

2006年度決算報告  
財団法人第五福竜丸平和協会

収入の部	
科 目	金 額
事 業 収 入	19,644,770
（展示館受託収入	17,282,900）
（広報資料普及収入	2,361,870）
会 費 収 入	1,710,000
寄 付 金 収 入	1,890,610
（寄付金	1,585,330）
（開館30周年募金	305,280）
そ の 他	49,963
前 期 繰 越 金	6,776,895
合 計	30,074,488
支出の部	
科 目	金 額
事 業 費	20,326,913
（展示事業	12,875,805）
（資料収集事業	2,898,771）
（広報普及事業	2,954,814）
（その他の事業	1,597,523）
管 理 費	2,029,480
固 定 資 産 取 得	148,000
特 定 預 金 支 出	500,000
次 期 繰 越 金	7,070,095
合 計	30,074,488